

1 情勢報告

こうち型集落営農組織 「芳生野営農生産組合」の通常総会が開催されました。



新組合長挨拶

2月19日、「芳生野営農生産組合」の第3期通常総会が、組合員20名（うち委任状5名）の出席で開催されました。

23年度決算報告、事業報告などの総会議決がされました。その後、振興センターから、こうち型集落営農の4年間の取り組みを振り返り、その実績を総括し、評価を示しました。

組合員から、「自分たちの取り組みが、地域に役だっていることが解った」「色々なことがあるが、ビジョンが進んでいることが確認できた」といった声が聞かれました。

今後も振興センターは、組織体制の定着に向けて、法人化の検討や複合経営品目等の選定などの活動を支援していきます。

梶原町の「鷹取キムチの里づくり実行委員会」の活動を支援しています。



既存商品の試食

2月23日、「鷹取キムチの里づくり実行委員会」による商品開発に向けた既存商品の試食検討会が、梶原町折渡の「鷹取の家」で、関係機関も参加して行われました。

「鷹取キムチの里づくり実行委員会」は、1月から話し合いを重ね、売上向上に向けて、商品開発等に取り組む24年度計画を立て、実践活動を始めています。検討会では、18品目のキムチ等の試食を行い、24年度計画の確認等を行いました。

振興センターは、次年度も関係機関と連携して、活動支援を行います。

JA津野山茶生産組合の総会と津野山茶振興大会が行われました。



茶生産組合長挨拶

3月8日、JA津野山茶生産組合総会が、津野町役場西庁舎で組合員50名の参加の中開かれました。

23年度決算報告及び事業報告など総会議決が滞りなく行われました。

総会后、津野山茶振興大会も行われ、お茶を取り巻く情勢や津野山茶の特性等、関係機関からの報告がありました。また、4月11日にオープンする津野町アンテナショップや加工所の説明があり、「ほうじ茶大福」の試食も行われました。

お茶を取り巻く状況が厳しい中、振興センターは、地域活性化のため関係機関と連携しながら今後も活動支援を行います。

1 情勢報告

JA四万十管内大野見地区普及推進協議会の開催



2月21日、JA四万十管内大野見地区の農業者代表、町・JAに集まっていたいただき、H23年度の普及活動実績や来年からの産業振興計画、普及指導計画について説明しました。また、集落営農組織の育成や大野見米ブランド化の取組成果等について発表しました。

農家からは「大野見米の取り組みを統一したものにしなければ」、「集落営農では経理の一元化に時間がかかる」、「病気になった人がいたが集落営農をやっていたので作業ができた」等の意見が出されました。JAからは独自の支援策で支援しますと、町からはソフト事業を使って勉強して元気な地域にしましょう等の意見をいただきました。

振興センターではいただいた意見等を今後の普及指導活動に活かして行きます。

集落営農の研修会を開催しました。



糸賀盛人氏による講演

2月28日、29日に、農事組合法人おくがの村代表理事糸賀盛人氏をお招きして、集落営農についての研修会（延べ68人参加）を開催しました。

28日は、振興センター管内の農業委員、関係機関担当職員を中心に、実践者も参加して、芳生野営農生産組合の事例報告や、高知県の推進方向などとともに、四半世紀にわたる（農）おくがの村の取り組みに耳を傾け、農業を継続していく仕組みとして、集落営農の可能性を学びました。

29日は、大野見地区を対象に、糸賀氏との交流を図りました。

振興センターは、今後も、関係機関と協力し合いながら、地域農業の仕組みの一つとして、集落営農を進めていきます。